

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170400907), 法人名 (さくらコミュニティサービス), 事業所名 (満快のふる郷さくら発寒), 所在地 (札幌市西区発寒6条14丁目17-33), 自己評価作成日 (平成28年12月2日), 評価結果市町村受理日 (平成29年1月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の六つの誓いを毎日職員で唱和し、入居者様の主体性を尊重した支援ができるよう取り組みを行なっています。【六つの誓い】 1. 人生の大先輩に対して、尊敬と敬意をはらい、生きていくお手伝いを心からさせていただきます。 2. 一人ひとりの主体性を尊重し、真剣に向き合ったケアを行ないます。 3. 一瞬一瞬がその方にとってかけがえのない人生であるから、今この時を大切にします。 4. 残された力を見出し、真の喜びと自信が持てる生活の実現を目指します。 5. 自由にその方らしく過ごしていただくために、言葉や行動による抑制は一切いたしません。 6. 地域の一員として、積極的に地域と交流し、理解を深めていただくための架け橋となります。 地域の子どもたちとの交流が深く、入居者様も喜んでくださると同時に、子どもが介護に触れる機会を設けることができます。ほぼ毎日ご家族の出入りがあり、気軽に入居することが出来る雰囲気があります。毎月バジャマパーティーを開催し、おつまみを手作りし入居者様・職員がバジャマで宴会を行なっています。終末期に伴うターミナルケアを行っており、その方が最期までその方らしく過ごすことが出来るよう、ご家族・医療機関と連携を密に取っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 rows: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170400907-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年12月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR駅から徒歩数分、閑静な住宅街に位置する2ユニットの事業所である。建物内は広くゆったりとして落ち着いた雰囲気の良い住環境である。職員は、最良の生活環境の提供という方針のもと、利用者に向き合い一人ひとりを尊重したケアの実践に努めている。毎月の勉強会やOJTを活用した職員育成体制が整っている。また、運営推進会議の活用も特筆でき、事業所の課題や困っている事をオープンにし、双方の協議を通して運営に生かしており、利用者支援の充実と質向上に繋げている。活動面では、毎月職員と利用者がバジャマ姿で居酒屋気分を味わうバジャマパーティーを開催し、恒例の敬老会や周年祭では家族や地域の子供達が参加し、賑やかな交流の機会を提供している。更に、往診や訪問看護の連携も良く、利用者の重度化に対応し終の棲家として看取り支援に取り組んでいる。ホーム長を中心に職員のチームワークが整い、利用者の安心感ある暮らしの継続を支えている事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である六つの誓いを毎朝唱和し、理念に沿った支援を心掛けている。	理念は、毎日唱和し、申し送り時や月例の全体会議の中で確認している。また、年数回、運営者が新人職員に理念教育研修を行い、理念の意味合いを噛み砕いて説明して理解を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	向かいの電器屋、近所の床屋を利用し顔見知りの関係が出来ている。児童会館の職員との連絡が密で、子供が行事に遊びに来てくれる。	町内会に加入し、運営推進会議の開催や隣接する商店の利用などを通して事業所や利用者への理解や協力を頂いている。恒例の周年祭には、近隣の住民や児童会館の子供たちが参加し、ふれあう機会になっている。	管理者は、町内会の新年会に参加する予定であり、今後さらに地域住民との交流する機会作りに取り組むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の場で近況報告をしており、症状の説明や支援内容を説明し理解していただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、入居者様・ご家族・地域の方々・ホーム職員とで開催し、ホームで予定している行事や近況報告をしている。地域で予定している行事などを教えていただき、参加できる体制作りにも努めている。	会議は、地域代表や包括センター職員、家族や利用者が参加し、定期的開催している。各種報告の他に現状課題や困っている事について率直な意見を頂いて運営に生かしている。その結果や改善を次回会議で報告するなどオープンな会議運営により、貴重な味方を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム長が窓口となっている他、生活保護を受けている方は各ユニット責任者を中心に区役所へ連絡をする機会がある。	市や区の担当部署とは、介護報酬加算や認定更新などで相談し、助言や指示を得て利用者支援に協働している。保護課担当者の来訪時にはユニット責任者が対応し、協力して情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的虐待や心理的虐待への理解を得るため勉強会のテーマに挙げている。日中は玄関の施錠はせずいつでも行き来できるようにしている。	内部勉強会で、高齢者虐待防止や身体拘束をしないケアを確認して共有し、日常業務の中で不適切な言動にならないよう注意している。職員のストレスマネジメントにも留意している。玄関は防犯上夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のテーマに挙げ取り組んでいる。職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境作りにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に一度全体会議の前後どちらかに勉強会を開催し介護に関することを学べる機会を設けている。成年後見制度に関しては職員が活用できる理解は浅く、学べる場を設ける必要があると感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が窓口となり締結・解約を行なっている。入居時はご本人やご家族の希望や不安な点をお聞きし、情報を職員へ開示したうえで、どうお迎えをするかカンファレンスを行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の在所確認書類と共に、ご家族からのご意見を返送できる用紙を送付している。また、来訪の際に希望を仰ってくださるご家族もいる。	家族の来訪が多く、主に職員が対応の中で意見や要望を伺い、話し易い関係作りをしている。意見等は速やかに職員間で共有する仕組みを作っている。毎月利用者の暮らしの様子や健康面を書類や電話等で報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内メールを活用し全員が意見や提案をできるツールがある。全体会議の場で討議する場合もあり、全員で決定できる機会を設けている。	月例の全体会議では、協議を通して業務に関する決定事項等を共有し、また、社内メールの活用により、職員の意見や提案、情報共有がスムーズに行われている。事業所では、職員の力や持ち味が十分に生かせる働きかけや関係性を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標設定をし、それに伴う評価を行なう評価制度システムが導入されており、各自が向上心を持って働けるよう工夫がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・リーダー研修・管理者研修を受けることが出来る環境がある。また、介護ファシリテーション研修・理念研修があり、介護のことだけではなく社会人として成長できる場を設けている。社員全員が参加できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修・内部研修で同業者と交流できる機会がある。西区グループホーム管理者連絡会にはホーム長が出席している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居受入れ時、職員が複数回面会へ行き入居時の不安を軽減できるよう努めている。面会の様子や希望があった際は記録に残し、職員が周知できる体制を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居手続き時、ご家族が困っていることや不安に思うことはないか必ずお聞きしている。また入居前に密に連絡を取り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・転居前の施設職員等に情報収集を行ない、「その時」何ができるか、何が必要かを知り、支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の主体性を尊重したケアを心掛けている。職員が知らないことを教えてくださったり、ゴミ捨てや片付けに協力してくださったりと、暮らしを共にすることができている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度文書で近況報告をする他、ご本人の体調に変化があった際はその日のうちに電話連絡を行なっている。行事時はお知らせを行ない、多くのご家族に参加していただけるよう関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に一度座談会に外出していただいている。近所の方が次の座談会日程を電話で教えてくださり、当日は迎えに来てくれる関係がある。入居前に関わりのあった馴染みの方が来訪されることもある。	馴染みの場所への外出を希望される利用者は多くないが、それぞれの関係性を大切に支援している。入居前から継続してきた宗教活動の会合に毎月参加されたり、入居後に顔馴染みになった近隣の床屋に定期的に通う利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやホーム行事で交流する機会がある。合同でラジオ体操を行ないホーム全体で関わり合いが持てる環境がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀へ参加させていただいたり、退去された方の郵便物が届いた際は電話で連絡を取り合ったりと、ご家族へ経過のフォロー体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活に対する意向は介護計画の更新の度、アセスメントしニーズを取りこぼさないようにしている。	日常の関わりの中で利用者の言葉を聞き漏らさずに、記録に残すと共に日々のケアに取上げ、できる限り本人意向に沿うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報収集の把握に努め、これまでの生活歴を考慮し主体性を持ったケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できない事よりもできる事に焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日介護計画が実施できるよう目標を決めて行なっている。モニタリングはその実施内容なども考慮し行なっている。	介護計画は、3ヵ月毎に見直し、アセスメント、モニタリングを通して本人や家族の意向を反映した介護計画を作成している。計画に対して日々の実践が確認できる記録等の様式変更を予定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、ケース記録が主となっているが職員間で声を掛けあい情報の把握・共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が気軽に出入りできる雰囲気作りに努めている。また、写真やお便りで様子をお知らせしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の電器屋、スーパー、床屋を利用している。町内間の新年会にも毎年入居者様が参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療との連携がある。24時間の緊急体制も確保できている。	入居前からのかかりつけ医の継続を支援しているが、殆どの利用者は、協力医療機関による月2回の往診診療を利用している。看護師による週1回の健康管理が行われ、状態変化時や気になる症状に対して主治医や看護師から速やかに指示を得られる体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している医療機関(琴似ファミリークリニック)による週に1回の健康管理を受けている。特変があった場合は電話連絡で情報伝達し対応方法の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と連絡をし、情報が途切れないよう努めている。入退院の際の説明には、職員も同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できていることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご家族から確認し、文書を交わしている。終末期には、琴似ファミリークリニック主治医よりご家族に看取りの説明を行ない同意を交わしている。	契約時に、ホームとしての重度化や終末期のあり方を説明し、状態変化の段階で終末期の意向確認を行い、看取り支援について説明している。職員は看取りケアのスキルを学び、利用者家族の希望する支援に丁寧に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	琴似ファミリークリニックの主治医や看護師より予測される急変の際への対処方法を事前に確認し、全職員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	札幌西消防署の方に来ていただき、定期的に防災訓練を行っている。また冬期間は避難経路の確保に努めている。	年2回、消防署や防災設備会社の立会いのもと、昼夜を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議を通して地域住民に協力を依頼している。系列グループホームとは相互の連携体制を結んでいる。	自然災害(地震、暴風雪、停電、断水等)についての対応策やシミュレーション、非常時に必要とする備蓄品の準備等の検討を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき個人を尊重し尊厳を守ることを心掛けた声掛けを行なっている。	接遇に関する教育担当職員を中心に、利用者の尊厳やプライバシーへの配慮に取り組んでいる。個人記録は施錠できる場所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺うこと他に、選択が困難な方には選択肢を絞り自己決定できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望が聞かれた際はスケジュール組をするなどし、ご本人の思いが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髭剃りを行なったり、整容を行なっている。また、定期的に訪問美容を呼び散髪をしている。男性入居者は近所の床屋を使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり盛り付けを職員と一緒にこなしている。食事メニューを見えるところに貼って食事への楽しみを持っていただけるよう工夫している。	食材納入業者を利用している。個別の形態変更に対応し、介助しながら一緒に食事をしている。誕生日や行事の際には、リクエストに応え釜飯やお寿司、弁当の出前を取ったり、ファミレスでの外食や庭先で焼肉も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算や水分量をチェックしながら目標水分量や栄養を満たせるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している他、週に1度訪問歯科と提携しながら清潔保持を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下剤や食生活の見直し、一定のリズムで排泄が出来るよう支援している。	利用者全員の排泄のパターンや状況を把握し、重度の利用者以外は、個別に合わせた声掛けや誘導を行っている。トイレは各階に3カ所、男子便器も備えてあり、利用者それぞれが自立排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを食べていただく、食生活の改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のタイミングで入浴できるよう、無理強いはしていない。入浴が不可能な方は清拭対応をし支援している。週に2回を目安に入浴回数増加を図っている。	週2回を目安に入浴を支援し、入浴が難しい利用者は、全身清拭等で保清している。同性介助が基本であるが、入浴状況の分析と職員間の協議に加え、家族や運営推進会議メンバーなど多様な意見を集約して、異性介助の場合も可能としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	月に一度、入居者様同士の交流の場として、就寝前にパジャマに着替えお酒やジュース、おつまみを召し上がっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を各ユニットで保管し常時確認できる体制がある。服薬内容の変更に関しては社内メールで全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒にキッチンに立ち、好みの料理を作ったり、リクエストをお聞きし外食や外出に繋げている。各入居者様の誕生会も行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春にお花見、秋は紅葉狩り、冬はクリスマスツリーを見に外出している。長時間の外出が困難な方にはホーム庭の桜を楽しんでいただいている。	イチゴ狩りや花見、小樽まで紅葉狩りに出掛けている。外出が難しい利用者は、庭先の桜や花を觀賞し戸外での気分転換の機会を作っている。個別や数人で、買い物やアイスを食べに出掛けたり、希望により月1回家族と職員同伴で音楽鑑賞に出掛ける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある入居者様に関してはご家族と相談の上所持していただいている。金銭管理が困難な入居者様はホーム内金庫にて保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	職員が電話をかけたり、ご家族からかかってきた際にご本人と代わりお話ししていただく機会がある。電話を居室に置かれている方もおり、ご自分で電話をかけられる環境がある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気や、消臭剤の設置で匂いへの配慮の工夫をしている。また、四季に合わせ装飾物などを変え季節感を味わえるよう努めている。	ホーム内は広く、ゆったりとしたスペースが確保されている。玄関を入ると正面に事業所の利用者をイメージしたイラストが掲示され、訪問者を温かく迎えている。過剰な音声や臭いなどに配慮され、季節の装飾や今日の献立の掲示と、居心地の良い環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ長く入られている際はリビングにお誘いするなど孤立しないよう配慮している。気の合う入居者様同士、同じ食卓テーブルに座っていただき会話ができる環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前使っていた筆筒など、馴染みのものがある際は持参していただき、心地よく過ごせるよう工夫している。	各居室には洗面台が設置され、使い易く自立を助けている。ベットやカーテン以外は自宅から馴染みの家具類を持ち込み、スターのポスターなども掲示して、安全性を保ち、自由なその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設け、居室が分かるよう工夫している。また、トイレの扉にトイレマークの看板を貼るなどし、迷わずトイレへ向かえるよう工夫している。		